



農作物の栽培トラブルを解決！農家への支援体制を強化

JA グループ初の「植物病院®」を設置

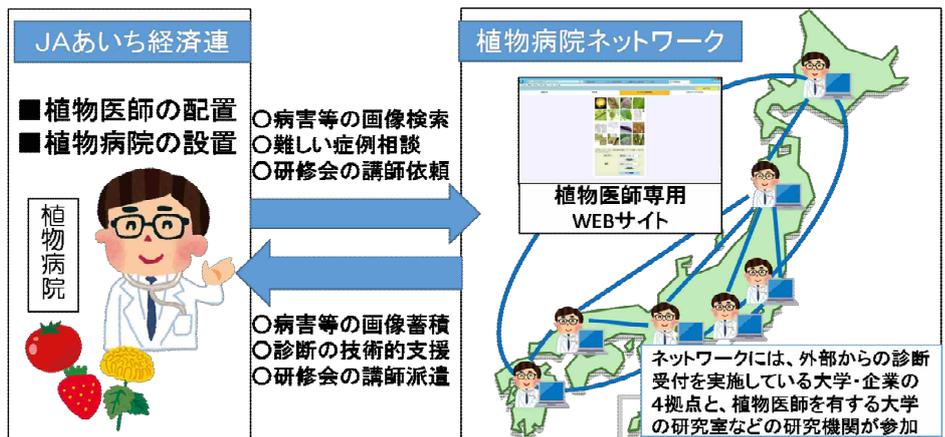
病害虫・生理障害診断の充実で農家の収益・品質向上をサポート

JAあいち経済連(名古屋市中区/理事長:権田博康)は、営農技術の情報拠点である営農支援センター内に、JAグループで初となる「植物病院®(※1)」を10月1日付で設置しました(正式名称:「東京大学連携JAあいち経済連植物病院®」)。青果物や花の生産における病害虫や生理障害の発生時に、全国の植物病院®や植物医師®とのネットワークを活用してその原因を診断し、対処方法を手助けする仕組みです。

これまで、県内JAを通じて農家組合員から栽培上のトラブル(農作物の生育不良・異常など)に関する相談があったときは、原因の調査を行い、JAとともに対処方法を提案して栽培・防除をサポートしてきました。今回の植物病院®の設置と同時に、新たな植物病原菌検査を導入することで、診断の精度やスピードの向上を図ります。あわせてJA職員の農家への指導力向上を図る研修などを行うことで、農家への支援体制を強化し、農作物の品質向上と農家の収益向上にさらに寄与することを目指します。

■植物病院®とは

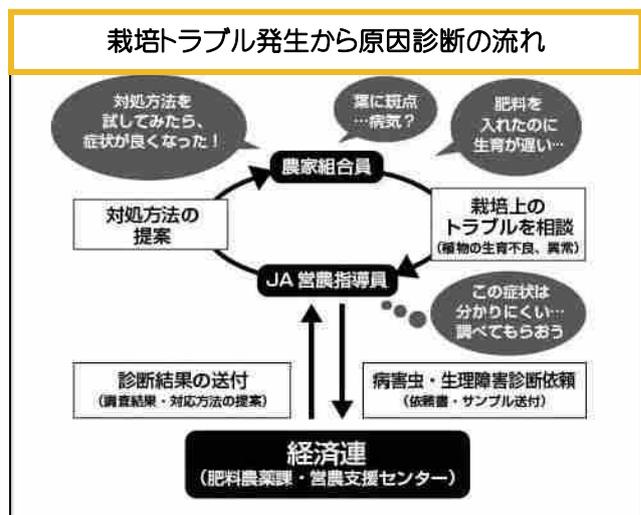
東京大学が中心となって提唱したもので、病害虫・雑草の専門家である「植物医師®(※2)」が、農作物に発生した病害虫・生理障害を外部からの依頼で調査し、対策を手助けする仕組みです。大学や企業など全国4カ所にある植物病院®と、植物医師®を有する研究機関とのネットワークが構築されています。



■植物病院®ネットワークの活用

今後は、専用WEBサイトを通じ全国の植物医師®と連携が図れ、これまで蓄積された病害情報が入手できるほか、難しい症例に関しては、東京大学植物病院®と連携した診断が可能となります。

また、全国の植物医師®に対して講師依頼もできるため、JAの営農指導員を対象とした研修会などに招くことで、JAグループ愛知の人材育成にも活用します。



植物病院® 導入の背景

近年、作物に発生する微小害虫(ハダニ類、アザミウマ類など)は、薬剤への抵抗性が発達して農家の困りごとのひとつとなっています。

その対策として、従来の化学農薬を中心にした防除手法が見直され、害虫の天敵を活用するなど新しい手法を採用する農家が増えてきました。また園芸ハウスでの栽培では、土を使わない養液栽培やハウス内の環境を制御する技術の導入により、栽培方法の多様化が進んでいます。

防除や栽培方法の変化・多様化が進むなかで、病害虫や生育不良・異常などの発生内容も変化しているのが現状であり、現場における栽培・防除指導の重要性がより高まっています。

■新たな植物病原菌検査の導入

これまでも行ってきた目視や顕微鏡観察による診断に加え、免疫アッセイ法^(※3)や遺伝子検査による植物病原菌検査を新たに導入します。

これらの検査は、キットや試薬が必要なため有償にて実施しますが、対象病原菌の有無をこれまでに比べ速やかに確認することができます。検査項目は10月以降、順次追加する予定です。



新たに導入する 植物病原菌検査一覧

トマト	かいよう病 黄化葉巻病 青枯病
ナス	青枯病
キク	矮化病 青枯病
イチゴ	萎黄病 疫病 炭疽病
カンキツ	温州萎縮病
野菜、花き	青枯病

■防除指導力向上研修の実施

植物病院[®]での病害虫・生理障害の診断結果を活用し、農家への防除指導力の向上を図るため、JAの営農指導員を対象に、植物医師[®]を講師に迎えた研修会を開催予定です。

例えば病害虫・生理障害の基礎知識や、農家への聞き取り・指導時のポイントの習得などをテーマに今後計画していきます。また、経済連職員向けには、診断技術の維持・向上を図るため、外部研修などを活用したスキルアップを継続的に進めていきます。

(※1) 植物病院[®]…一般社団法人日本植物医科学協会の登録商標。

(※2) 植物医師[®]…一般社団法人日本植物医科学協会の登録商標。国家資格「技術士(農業部門・植物保護)」二次試験合格者を対象とした、一般社団法人日本植物医科学協会による植物医師認定審査の合格者に与えられる資格。

(※3) イムノアッセイ法…免疫反応を利用して、微量物質の検出を行う生化学的手法。

この件に関するお問い合わせは、下記までお願いします。

JA あいち経済連 営農総合室 担当:橋本・小澤

TEL:052-951-3471 FAX:052-961-3544 Email:einou@ja-aichi.or.jp